

建築科・夜間

- ・履修科目表
- ・卒業・進級要件
- ・履修判定試験および評価方法
- ・シラバス（授業概要）

ディプロマポリシー

計画・法規・構造・施工を理解した上で、木造住宅・鉄筋コンクリート造建築の計画ができる技術者

<https://tec.ttc.ac.jp/departments/architecture-evening/diploma-policy>



学校法人 小山学園

専門学校 東京テクニカルカレッジ

履修科目履修時間表 建築科夜間 (実務経験のある教員が担当する科目)

2025年度入学生用

東京テクニカルカレッジ

変更日

※「1履修時間」は実時間で45分とする。また、「1授業時間(1コマ)」は2履修時間(実時間で90分)とする。

※履修時間を単位数で換算する場合は、講義科目にあっては15履修時間、実習科目にあっては30履修時間をそれぞれ1単位として換算する。

分類	中	番号	必修 選択	教育科目名	数	単位	1年次					2年次					実務 経歴 ※1	備考	
							1期	2期	3期	4期	5期	1期	2期	3期	4期	5期			
大講義科目	一般教養	01	◎	一般教養1		1			16								○		
		02	◎	一般教養2		1				16							○		
		03	◎	専門導入1		2	32										○	●(シラバス提出授業、以下同じ)	
		04	◎	専門導入2		2	32										○	●	
		05																	
	基礎講義	01	◎	建築概論		2	32											○	●
		02	◎	建築計画1		1			16									○	
		03	◎	建築史1		1			16									○	
		04	◎	建築法規1		1			16									○	
		05	◎	構造力学1		1			16									○	
		06	◎	建築一般構造1		1			16									○	
		07	◎	建築施工1		1			16									○	
		08	◎	環境工学1		1				16								○	
		09	◎	建築設備1		1					16							○	
		10	◎	建築史2		1				16								○	
		11	◎	建築法規2		1				16								○	
		12	◎	構造力学2		1				16								○	
		13	◎	環境工学2		1					16							○	
		14	◎	建築設備2		1						16						○	
		15	◎	建築法規3		1					16							○	
		16	◎	構造力学3		1					16							○	
		17	◎	建築施工2		1					16							○	
		18	◎	建築材料1		1						16						○	
		19	◎	建築法規4		1						16						○	
		20	◎	構造力学4		1						16						○	
		21	◎	建築一般構造2		1					16							○	
		22	◎	建築施工3		1						16						○	
		23	◎	建築材料2		1						16						○	
		24																	
	応用講義	01	◎	建築経済		1						16						○	
		02	◎	建築計画2		1						16						○	
		03	◎	建築設備3		2							32					○	
		04	◎	建築史3		1								16				○	
		05	◎	建築法規5		1						16						○	
		06	◎	建築一般構造3		2									32			○	
		07	◎	建築計画3		1								16				○	
		08	◎	建築法規6		1								16				○	
		09	◎	建築材料3		1							16					○	
		10	◎	生産管理		1									16			○	
		11	◎	建築一般構造4		1						16						○	
		12	◎	構造力学5		1							16					○	
		13	◎	建築施工4		6									96			○	
		14	◎	建築積算		2											32		○
		15	◎	建築士総合講座1		2						32						○	
		16	◎	建築士総合講座2		2							32					○	
		17																	
実習科目	基礎実習	01	◎	建築製図実習1		1	32											○	
		02	◎	建築製図実習2		1			32									○	
		03	◎	建築製図実習3		1				32								○	
		04	◎	建築製図実習4		1					32							○	
		05	◎	建築製図実習5		2						64						○	
		06	◎	建築立体造形実習1		1	32											○	
		07	◎	建築立体造形実習2		1			32									○	
		08	◎	建築立体造形実習3		1				32								○	
		09	◎	建築立体造形実習4		1					32							○	
		10	◎	建築立体造形実習5		1						32						○	
		11																	
	応用実習	01	◎	建築製図実習6		1						32						○	
		02	◎	建築製図実習7		1							32					○	
		03	◎	建築製図実習8		1								32				○	
		04	◎	建築製図実習9		1									32			○	
		05	◎	建築製図実習10		2											64	○	
		06	◎	建築立体造形実習6		1						32						○	
		07	◎	建築立体造形実習7		1							32					○	
		08	◎	建築立体造形実習8		1								32				○	
		09	◎	建築立体造形実習9		1									32			○	
		10	◎	建築立体造形実習10		2											64	○	
		11	◎	建築士総合講座3		1											32	○	
		12	◎	測量実習1		1				32								○	
		13	◎	測量実習2		1											32	○	
		14																	
	研修	01	△	海外短期留学研修1		3						90							
		02	△	海外短期留学研修2		3											90		
		03	△	建築・インテリア海外研修1		3						90							
		04	△	建築・インテリア海外研修2		3											90		
		05	△	国内建築研修1		1						30							
		06	△	国内建築研修2		1											30		
		07	△	国内環境研修1		2						60							
		08	△	国内環境研修2		2											60		
		09																	
行事	その他	01	△	学園祭準備・片付け			24					24							
		02	△	学園祭			16					16							
		03	△	就職ガイダンス			8												
		04																	
期時間数(総単位数)					-	160	176	176	176	176	176	160	160	208	112	224			
学年必要履修時間数(総単位数)					-				864					864					
総必要履修時間数(総単位数)					82						1728								
選択科目履修時間数・単位数					-						270						270		
期総時間数(総単位数)					-	160	176	176	176	446	160	160	208	112	494				
学年総時間数(総単位数)					-				1134					1134					
総時間数(単位数:学外単位自習型を除く)					100						2268								
実務経験を有する教員が担当する期時間数					-	160	176	176	176	176	160	160	208	112	224		●シラバス提出授業合計時間数:96時間		
実務経験を有する教員が担当する総時間数/総必要履修時間数(割合)					-					1728(100%)						※実務経験を有する教員が担当している割合			

◎・・・必修科目(当該学科の全学生が卒業までに必ず履修しなければならない科目)

○・・・選択必修科目(一群の選択科目の中から指定された科目数を選択して履修しなければならない科目)

△・・・選択科目(学生が任意に選択して受講することができる科目)

※卒業に必要な履修時間数は「総必要履修時間数」欄に示された時間数である。

※1・・・実務経験のある教員担当科目

・成績評価及び卒業要件

<履修評価（合否判定）の方法>

①科目の合否

本校では、科目の合否は原則的に履修判定試験のみでおこない、60%の理解度をもって合格とする。
履修判定試験は「筆記試験」・「実習試験」でおこなわれるが、作品制作やレポートなど普段の授業の中でおこなわれる提出物の評価を履修判定試験内で評価することがある。
その場合の評価の方法については、講義概要（コマシラバス）の中に明記される。

②未受験者・試験不合格者の処置

A：以下のものには追試をおこなう。

- 1.公認欠席（忌引き等）に該当する者が試験を受験しなかった場合。
 - 2.病気等で通院・入院・自宅安静をしており試験当日登校できない事由が証明できる者。
- 追試の時期は各科の科長が別途日程を定めて実施する。

B：試験に不合格になった学生及び正当な理由無しに未受験となった学生に対して、原則再試はおこなわない。

ただし、不合格となった科目の単位数に応じた枚数のチケットを取得した上で、担当教員の補習授業が終了した者については、再試をおこなう。

チケットの取得方法に関しては、別途細則で定める。

③履修判定試験の運営

履修判定試験を受験しようとする者は試験会場に5分以上前に入室し、机上に学生証など身分を示す物を提示する。

試験会場では、試験監督官の指示に従って行動する。

試験開始後20分以上経過した場合には、その試験の受験資格を失う。

試験中に監督官から不正行為を指摘された場合には直ちに教室から退室する。この場合は当該科目を不合格とする。

<成績評価およびその客観的な指標について>

履修判定試験の結果が100点～80点のものをA（合格）、79点～70点のものをB（合格）、69点～60点のものをC（合格）、59点以下のものをD（不合格）として成績評価とする。

このA～Dの評価を、A＝3点、B＝2点、C＝1点、D＝0点として各科目の成績を点数化のうえ合計し、総科目数で割り指標数値を算出して各科の成績分布の指標とする。

<進級について>

①進級

進級学年の学生は「履修時間表」に記載された当該年度の履修科目を全て履修した場合に進級できる。

②準進級

進級学年の学生は「履修時間表」に記載された当該年度までの履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、「履修時間表」に記載された卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えない場合は、次の学年に進級できるが、これを準進級とし進級者と区別する。

③留年

進級学年の学生は「履修時間表」に記載された当該年度までの履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、「履修時間表」に記載された卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えた場合は留年となり、その年に取得した全ての単位が無効となり次年度同一学年で学習しなければならない。

④進級・準進級・留年の決定

進級・準進級・留年の最終判断は、進級公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

<卒業について>

①卒業

「履修時間表」に記載された卒業に必要な履修科目を全て履修した場合に卒業できる。

②科目留年

卒業学年の学生は「履修時間表」に記載された卒業に必要な履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えない場合は、科目留年となる。

科目留年となった場合は、それまでに取得した全ての科目の単位数はそのままとなり、不合格となった科目のみ次年度再履修することで卒業することができる。

科目留年における在籍料・科目履修費用などを含めた事務的な手続きは別途細目で定める。

③留年

卒業学年の学生は「履修時間表」に記載された卒業に必要な履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えた場合は留年となり、その年に取得した全ての単位が無効となり次年度同一学年で学習しなければならない。

準進級者が留年した場合でも、準進級の原因となった当該年度以前に未履修となった科目について、当該科目の再履修免除はない。

④卒業・科目留年・留年の決定

卒業・科目留年・留年の最終判断は、卒業公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

No	3531101	科目コード	1010301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築CADを利用して設計製図、プレゼン資料を作成する上で、パソコンの基本的な操作ができるようになる必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：キーボードから文字入力、ノートデータベースの参照・メールのやりとり、ネットワーク利用基準を理解し、安全な使い方ができるようになることを目標とします。	
学年	1年次		
期	1		
教科名	専門導入	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	専門導入1	01) パソコンの基本的な取り扱いができる。	
単位	2	02) キーボードから文字入力ができる。	
履修時間	32	03) ノートデータベースの参照・メールのやりとりができる。	
回数	16	04) ネットワーク利用基準を理解し、ネチケットに従った使用ができる。	
必修・選択	必修	05) コンピュータの内容や個人情報を守らなければならないことを理解し、安全な使い方ができる。	
省庁分類	－	06)	
授業形態	講義	07)	
作成者	村上啓示	08)	
教科書	情報リテラシーテキスト	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	－		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531102	科目コード	1010401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：「人間工学」に基づきながら、建築の計画（住空間の計画）を進めていく上で必要な生活空間の広さや規模、動線計画等について理解する必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：建築をかたちづくる寸法をひとつひとつ分析し、建築における寸法がどのように決定されていくかを考えと共に「人間工学」の基本的な考えを理解し「人間工学」の建築（特に住空間）への応用について学びます。	
学年	1年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	1	01) 建築計画の役割と範囲がわかる。	
教科名	専門導入	02) 住居空間（戸建住宅から共同住宅まで）の歴史がわかる。	
科目名	専門導入 2	03) 住居空間（戸建住宅から共同住宅まで）の建築計画がわかる。	
単位	2	04) 住居空間（戸建住宅から共同住宅まで）の単位空間とその寸法体系がわかる。	
履修時間	32	05) 住居空間（戸建住宅から共同住宅まで）の動線計画がわかる。	
回数	16	06)	
必修・選択	必修	07)	
省庁分類	－	08)	
授業形態	講義	09)	
作成者	鈴木 昇	10)	
教科書	情報リテラシーテキスト	評価方法	
確認者	鈴木 昇	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂昭司		
実務教員	○		
該当DP	－		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531103	科目コード	1020101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：これから学ぶ建築に関する各科目を概観すると共にその学び方を理解する必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：建築の歴史を概観すると共に、各科目で学ぶ内容の概略について学びます。	
学年	1年次		
期	1	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築概論		
科目名	建築概論	01) 建築とは何か、建築学にはどのような科目があるのか、その概略がわかる。	
単位	2	02) 古典古代から現代までの建築の歴史を概観し概略がわかる。	
履修時間	32	03) 現代建築に求められる社会性がわかる。	
回数	16	04) 現代建築に影響を及ぼした近代建築の巨匠の理念と主な作品がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築士の役割と求められる職能がわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画	06) 建築士の仕事とその内容がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	サブテキスト	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531104	科目コード	2020101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築実務で多用されているCADソフト（AutoCAD）の基本操作と木造平屋建て住宅の基本図の作図ができる必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：AutoCADの基本操作と、木造平屋建て住宅の作図手順を理解します。	
学年	1年次		
期	1	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築製図実習		
科目名	建築製図実習1	01) CAD製図の特性がわかる。	
単位	1	02) AUTOCADの基本操作がわかる。	
履修時間	32	03) AUTOCADを使用して木造平屋建住宅の配置図兼1階平面図をトレースできる。	
回数	16	04) AUTOCADを使用して木造平屋建住宅の立面図をトレースできる。	
必修・選択	必修	05) AUTOCADを使用して木造平屋建住宅の断面図をトレースできる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) AUTOCADを使用して仕上げ表を作成できる。	
授業形態	実習	07) AUTOCADを使用して面積表を作成できる。	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	建築製図入門	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	①		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531105	科目コード	2020601
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築の立体表現技法として3次元CADソフトであるSketchUpの特性と基本操作を理解し、木造平屋建住宅の立体表現ができるようになることを目的とします。	
年度	2025年度	学習内容：ここではSketchUpの特性と基本操作を理解し、木造平屋建住宅の立体表現ができるようになることを目的とします。	
学年	1年次		
期	1		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習1	01) 建築図面における立体表現の意味と役割がわかる。png	
単位	1	02) 3次元CADの特性がわかる。	
履修時間	32	03) SketchUpの基本操作がわかる。	
回数	16	04) SketchUpを用いて木造平屋建住宅のモデリング作業ができる。	
必修・選択	必修	05) SketchUpを用いて木造平屋建住宅のレンダリング作業ができる。	
省庁分類	32. ⑩その他	06)	
授業形態	実習	07)	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	建築製図入門	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	①		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532101	科目コード	1010101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間		
年度	2025年度	必要性：生涯を、豊かで安心できる生活を送り、夢や希望を実現するための資金計画の立て方を学びます（フィナンシャルプランニング）	
学年	1年次		
期	2	学習内容：給与から差し引かれる社会保険料、所得税・住民税について、また次の期では、住宅資金にかかわる諸問題、税制について理解を深めます。	
教科名	一般教養		
科目名	一般教養I	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
単位	1	01) キャッシュフロー表を使ってフィナンシャルプランニングを理解できる	
履修時間	16	02) 社会保険～適用される社会保険と保険料～を理解できる	
回数	8	03) 社会保険の種類と改正点～健康保険・介護保険・労災・雇用保険編～を理解できる	
必修・選択	必修	04) 社会保険～公的年金概要と受給金額試算～を理解できる	
省庁分類	-	05) 所得税の仕組みと税額計算が理解できる	
授業形態	講義	06) 住民税計算と納付～申告納付の所得税、賦課される住民税～を理解できる	
作成者	松浦佳代	07)	
教科書	サブテキスト	08)	
確認者	鈴木 昇	09)	
最終確認者	井坂昭司	10)	
実務教員	○	評価方法	
該当DP	-	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
備考	実務で必要な資金計画を教える必要があり、フィナンシャルプランナーとして実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532102	科目コード	1020201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：「人間工学」に基づきながら、建築の計画を進めていく上で必要な生活空間の広さや規模、動線計画等について理解を深めていきます。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ここでは、建築をかたちづくる寸法をひとつひとつ分析し、建築における寸法がどのように決定されていくが考え	
期	2	ると共に「人間工学」の基本的な考えを理解し「人間工学」の建築への応用について学びます。	
教科名	建築計画	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築計画1	01) 建築計画の役割と範囲について理解できる	
単位	1	02) 住居空間（戸建住宅から共同住宅まで）の歴史について概略理解できる	
履修時間	16	03) 住居空間（戸建住宅から共同住宅まで）の建築計画について理解できる	
回数	8	04) 住居空間（戸建住宅から共同住宅まで）の単位空間とその寸法体系について理解できる	
必修・選択	必修	05) 住居空間（戸建住宅から共同住宅まで）の動線計画について理解できる	
省庁分類	20. ②建築計画	06)	
授業形態	講義	07)	
作成者	稲村健一	08)	
教科書	建築計画	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532103	科目コード	1020301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：西欧と日本の建築の歴史を、古典古代から近代までを対象として、その時代を代表する建築物と建築様式、建築家などについて学び、現代都市を構成している建築物の成立過程とその問題点について理解を深めていきます。	
科	353. 建築科夜間		
年度	2025年度	学習内容：西洋建築の古典古代から近世までの建築史を取り上げ、各時代の時代背景と建築様式について理解を含めます。	
学年	1年次		
期	2	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築史		
科目名	建築史1	01) 建築史を学ぶ意義の概略を理解する	
単位	1	02) 西洋の古典古代の代表的な建築物とその成立過程について理解できる	
履修時間	16	03) ギリシャ時代の代表的な建築物とその成立過程について理解できる	
回数	8	04) ローマ時代の代表的な建築物とその成立過程について理解できる	
必修・選択	必修	05) ビザンチン時代の代表的な建築物とその成立過程について理解できる	
省庁分類	20. ②建築計画	06) ロマネスク時代の代表的な建築物とその成立過程について理解できる	
授業形態	講義	07) ルネサンス時代の代表的な建築物とその成立過程について理解できる	
作成者	鈴木 昇	08) マニエリスム時代の代表的な建築物とその成立過程について理解できる	
教科書	建築史	09) 新古典主義時代の代表的な建築物とその成立過程について理解できる	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532104	科目コード	1020401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：個々の建築物の安全性を考慮し、構造、防火、避難、室内環境等に関する規定を定めている建築関連法規は、建築実務において必須の知識です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ここでは建築関連法規の基本構成と、建築基準法及び建築基準法施行令における基本用語について学びます。	
期	2		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規1	01) 建築関連法規の種類と役割を理解できる	
単位	1	02) 建築基準法の成り立ちと基本構成を理解できる	
履修時間	16	03) 建築基準法における基本用語を理解できる	
回数	8	04) 集団規定の道路の法規制について理解できる	
必修・選択	必修	05) 集団規定の用途地域の種類と特性について理解できる	
省庁分類	28. ⑨建築法規	06)	
授業形態	講義	07)	
作成者	稲本淳平	08)	
教科書	建築関連法令集	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑦		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532105	科目コード	1020501
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築物を成り立たせる構造形式とその力学的特性について学び、建築設計、特に構造設計の基本知識を習得します。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ここでは構造力学の基礎である力の種類や特性を知り、基本構造形式における反力計算をできるようにします。	
期	2		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学1	01) 構造力学の役割について理解できる	
単位	1	02) 構造力学の基本的な考え方が理解できる	
履修時間	16	03) 構造形式の特性について理解できる	
回数	8	04) 外力の種類について理解できる	
必修・選択	必修	05) 基本構造形式における反力計算ができる	
省庁分類	23. ⑤構造力学	06)	
授業形態	講義	07)	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	構造力学	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築構造設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532106	科目コード	1020601
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築一般構造では、建築物を構成している各種構造形式（木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、組積造）の素材や構法上の特性について学びます。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ここでは特に木質構造（主に伝統構法、在来軸組構法、枠組壁構法）素材や構法上の特性について学びます。	
期	2		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造1	01) 建築一般構造の役割と範囲について理解できる	
単位	1	02) 木質構造（伝統構法）の素材、構法上の特性について理解できる	
履修時間	16	03) 木材の種類、材料特性、木取、製材、使用方法について理解できる	
回数	8	04) 木質構造（在来軸組構法）の素材、構法上の特性について理解できる	
必修・選択	必修	05) 木材の種類、材料特性、木取、製材、使用方法について理解できる	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	06) 木質構造（枠組壁構法）の素材、構法上の特性について理解できる	
授業形態	講義	07) 木材の種類、材料特性、木取、製材、使用方法について理解できる	
作成者	稲村健一	08)	
教科書	建築構造	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑤		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532107	科目コード	1020701
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築施工は、建築主が求める品質と設計者が意図した性能を満足させ、限られたコストと時間の中で、労働災害を生じせずに建築物を完成させるために必要とされる技術体系です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ここでは木質構造建築物（主に在来軸組構法と枠組壁構法）の施工方法とその特性について理解を深めていきます。	
期	2		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工Ⅰ	01) 建築生産における建築施工の位置付けについて理解できる	
単位	1	02) 木造在来軸組構法の施工手順について理解できる	
履修時間	16	03) 木造在来軸組構法の基礎工事について理解できる	
回数	8	04) 木造在来軸組構法の建て方工事について理解できる	
必修・選択	必修	05) 木造在来軸組構法の屋根工事について理解できる	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 木造在来軸組構法の設備工事について理解できる	
授業形態	講義	07) 木造在来軸組構法の内装仕上げ工事について理解できる	
作成者	稲村健一	08)	
教科書	建築施工	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑥		
備考	実務で必要な建築施工管理技術を教える必要があり、建築施工管理の実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532108	科目コード	2020201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：木造在来軸組構法を用いた木造平屋建住宅の設計を通じて、木造住宅建築の計画・設計手法（エスキスから作図まで）、在来軸組構法の構法上の特性、建築設計図面の描き方について学びます	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ここでは在来工法木造平屋建て住宅の設計課題を実施しながら木造在来工法とその設計手法について学んでいきます。	
期	2		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習2	01) 木造在来軸組構法の特性が理解できる	
単位	1	02) 木造平屋建て住宅の実例を通してその特性を理解できる	
履修時間	32	03) 住宅建築設計の設計手法について理解できる	
回数	16	04) 木造建築の構造特性、モジュールについて理解できる	
必修・選択	必修	05) 設計手法、エスキスの進め方、表現手法について理解できる	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 基本図（配置図、平面図、立面図、断面図、概要書）の描き方について理解できる	
授業形態	実習	07) 2DCAD表記方法について理解できる	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	②		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532109	科目コード	2020701
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：木造在来軸組構法を用いた木造平屋建住宅の設計を通じて、木造住宅建築の計画・設計手法（エスキスから作図まで）、在来軸組構法の構法上の特性、建築設計図面の描き方について学びます	
年度	2025年度		
学年	1年次		
期	2	学習内容：ここでは在来工法木造平屋建て住宅の設計課題を実施しながら木造在来工法とその設計手法について理解を深めます。	
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習2	01) 木造在来軸組構法の特性が理解できる	
単位	1	02) 木造平屋建て住宅の実例を通してその特性を理解できる	
履修時間	32	03) 住宅建築設計の設計手法について理解できる	
回数	16	04) 木造建築の構造特性、モジュールについて理解できる	
必修・選択	必修	05) 設計手法、エスキスの進め方、表現手法について理解できる	
省庁分類	-	06) 基本図（配置図、平面図、立面図、断面図、概要書）の描き方について理解できる	
授業形態	実習	07) 3DCAD表記方法について理解できる	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	②		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533101	科目コード	1010201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築物、特に住宅建築の取得に関する資金関連について理解する必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：住宅関連動向、住宅資金の借入、住宅関連の税金とそれらに影響を与える低金利政策、相続税制改正等、個人の住宅取得や賃貸住宅建設動向と税制メリットを訴求した住宅建築とはどのようなもののかについて学ぶ。	
期	3		
教科名	一般教養	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	一般教養2	01) 住宅に関する経済動向がわかる	
単位	1	02) マイホーム取得あるいは保有でかかる税金と特例がわかる	
履修時間	16	03) マイホーム取得のための借入れ方法がわかる	
回数	8	04) 自宅の売却に関わる税金（譲渡所得）・空き家を防ぐ施策がわかる	
必修・選択	必修	05) 賃貸住宅経営で発生する賃貸人の権利と事業収支がわかる	
省庁分類	－	06) 相続税節税策、不動産の評価減についてわかる	
授業形態	講義	07)	
作成者	松浦佳代	08)	
教科書	サブテキスト	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	－		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533102	科目コード	1020801
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、人間にとって快適な空間を造るために、太陽光の性質・空気の性質・温度と湿度・熱の性質・色彩の原理を知り、上手に取り入れていく方法を学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：今期は、日照・日射・色と音に関して学びます。日照や日射の項目では、日照や日射による室内の明るさや人工的な照明による明るさの変化、適度な光量について学びます。色や音の項目では、色が人に与える影響や効果、音の伝わり方や聴感について学びます。	
期	3		
教科名	環境工学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	環境工学1	01) 外界気象と都市環境：温湿度の考え方や風向等が建物にどのような影響を与えるかがわかる。	
単位	1	02) 日照・日射・日影：太陽光を「熱」と「光」に分けて、どのように建物へ取り込むべきかがわかる。	
履修時間	16	03) 採光計画（自然光による建物への採光調整、人間の視覚条件、グレア現象等）がわかる。	
回数	8	04) 採光計画（人工採光（照明）による建物での光環境、照明計画の基本、窓の役割）がわかる。	
必修・選択	必修	05) 色彩計画（色彩応用に関する各種表色の考え方や、色彩の構成（明度や彩度））がわかる。	
省庁分類	21. ③建築環境工学	06) 色彩計画（色彩が与える心理的影響や、建物（内外装）での色彩の応用等）がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	加藤 諭	08)	
教科書	環境工学	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	④		
備考	実務で必要な建築設備・環境計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533103	科目コード	1021001
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、古代、中世、近世の日本の建築史について学び現代建築を理解する上での基礎知識を得る必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：日本建築の古代から近世までの建築史を取り上げ、各時代の時代背景と建築様式について学びます。	
期	3		
教科名	建築史	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築史2	01) 縄文時代、弥生時代、飛鳥・白鳳時代の建築とその特性がわかる。	
単位	1	02) 縄文時代、弥生時代、飛鳥・白鳳時代の建築とその特性がわかる。	
履修時間	16	03) 奈良時代の建築とその特性がわかる。	
回数	8	04) 平安時代の建築とその特性がわかる。	
必修・選択	必修	05) 鎌倉時代の建築とその特性がわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画	06) 室町時代の建築とその特性がわかる。	
授業形態	講義	07) 安土桃山時代の建築とその特性がわかる。	
作成者	鈴木 昇	08) 江戸時代の建築とその特性がわかる。	
教科書	建築史	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533104	科目コード	1021101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を実際に計画、実現（施工）するために必要な建築関連諸法令について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ボリューム・形態の規制（建蔽率、容積率、高さ制限、日影規制等）について学び、設計に活かせるようにします。	
期	3		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規2	01) 容積率の概念と各種条件毎の容積率の算定方法がわかる。	
単位	1	02) 建築物の高さに関する規定（絶対高さ）と各種条件毎の算定方法がわかる。	
履修時間	16	03) 建築物の高さに関する規定（道路斜線制限）と各種条件毎の算定方法がわかる。	
回数	8	04) 建築物の高さに関する規定（隣地斜線制限）と各種条件毎の算定方法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築物の高さに関する規定（日影規制）と各種条件毎の算定方法がわかる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	06) 建築物の高さに関する規定（天空率規制）と各種条件毎の算定方法がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	稲本淳平	08)	
教科書	建築関連法令集	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533105	科目コード	1021201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を実際に計画し、実現するために、建築の構造形式とその力学的特性について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：静定構造物の断面力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力）の基本的な概念について学び、各種構造形式と外力の状況に応じた算定方法について学びます。	
学年	1年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	3		
教科名	構造力学	01) 断面力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力）の基本的な概念がわかる。	
科目名	構造力学2	02) 各種構造形式と外力の状況に応じた曲げモーメントの算定方法がわかる。	
単位	1	03) 各種構造形式と外力の状況に応じた曲げモーメントの表記方法がわかる。	
履修時間	16	04) 各種構造形式と外力の状況に応じたせん断力の算定方法がわかる。	
回数	8	05) 各種構造形式と外力の状況に応じたせん断力の表記方法がわかる。	
必修・選択	必修	06) 各種構造形式と外力の状況に応じた軸方向力の算定方法がわかる。	
省庁分類	23. ⑤構造力学	07) 各種構造形式と外力の状況に応じた軸方向力の表記方法がわかる。	
授業形態	講義	08)	
作成者	鈴木 昇	09)	
教科書	構造力学	10)	
確認者	鈴木 昇	評価方法	
最終確認者	井坂昭司	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
実務教員	○		
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築構造設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533106	科目コード	2020301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では木造在来軸組構法を用いた木造2階建住宅の設計を通じて、木造2階建住宅建築の計画・設計手法（エスキスから作図まで）、在来軸組構法の構法上の特性、建築設計図面の描き方について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：ここでは在来工法木造2階建て住宅の設計課題を実施しながら木造在来工法とその設計手法について学びます。	
学年	1年次		
期	3		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習3	01) 木造在来軸組構法の特性がわかる。	
単位	1	02) 木造2階建て住宅の実例を通してその特性がわかる。	
履修時間	32	03) 住宅建築設計の設計手法がわかる。	
回数	16	04) 木造建築の構造特性、モジュールがわかる。	
必修・選択	必修	05) 設計手法、エスキスの進め方、表現手法がわかる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 基本図（配置図、平面図、立面図、断面図、概要書）が描くことができる。	
授業形態	実習	07) 2DCAD表記方法がわかる。	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533107	科目コード	2020801
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、木造2階建住宅建築の立表現（CG）の手法を学び、木造住宅建築の空間とその表現方法を理解し、設計課題に取り組む必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：ここでは在来工法木造2階建て住宅の設計課題を実施しながら木造在来工法とその設計手法を学びます。	
学年	1年次		
期	3		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習3	01) 木造在来軸組構法の特性がわかる。	
単位	1	02) 木造平屋建て住宅の実例を通してその特性がわかる。	
履修時間	32	03) 住宅建築設計の設計手法がわかる。	
回数	16	04) 木造建築の構造特性、モジュールがわかる。	
必修・選択	必修	05) 設計手法、エスキスの進め方、表現手法がわかる。	
省庁分類	-	06) 基本図（配置図、平面図、立面図、断面図、概要書）が描くことができる。	
授業形態	実習	07) 3DCAD表記方法がわかる。	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533108	科目コード	2031201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、測量学の基礎を学び、建築測量上必須である水準測量と角測量の原理及び実施方法をグループ実習を通して学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：水準測量と角測量の原理及び実施方法についてグループ実習を通して学び、測量作業を実施できるようにします。	
学年	1年次		
期	3	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	測量実習	01) 測量学の基礎がわかる。	
科目名	測量実習1	02) 建築測量の基礎がわかる。	
単位	1	03) 水準測量の原理がわかる。	
履修時間	32	04) 水準測量器（レベル）が使用できる。	
回数	16	05) 測量実習データの整理ができる。	
必修・選択	必修	06) 測量誤差の是正方法がわかる。	
省庁分類	32. ⑩その他	07)	
授業形態	実習	08)	
作成者	鈴木 昇	09)	
教科書	測量実習	10)	
確認者	鈴木 昇	評価方法	
最終確認者	井坂昭司	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
実務教員	○		
該当DP	-		
備考	実務で必要な測量技術を教える必要があり、建築施工管理の経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534101	科目コード	1020901
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建物を有効に機能させ、住環境を快適かつ安全、衛生的に保つための建築設備について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：この時間では「給排水衛生設備」の種類と役割、施工方法について学びます。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築設備	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備Ⅰ	01) 建築設備の学習目的や業態、水道直結給水方式、給水設備用語がわかる。	
単位	1	02) 重力式給水及び他給水方式の適用と長短所、受水槽の各種規定、給水計算がわかる。	
履修時間	16	03) 給水ポンプ、給水管配管材料、給水設備の更生（改修）がわかる。	
回数	8	04) 給湯設備の概要、局所式給湯方式と使用される給湯機器（ガス給湯器等）、省エネ関連機器、給湯配管材がわかる。	
必修・選択	必修	05) 衛生設備機器：水栓類、シンク（流し台）及び洗面手洗い器具、大便器、小便器等の各種別やその特性、洗浄方式がわかる。	
省庁分類	22. ④建築設備	06) ガス設備：ガス種別、設置規定、ガス安全使用、ガス漏れ警報器の設置規定、バリアフリー対応の衛生器具類がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	加藤 諭	08)	
教科書	建築設備	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	③		
備考	実務で必要な建築設備・環境計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534102	科目コード	1021301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：建築分野では、人間にとって快適な空間を造るために、太陽光の性質・空気の性質・温度と湿度・熱の性質・色彩の原理を扱う環境工学について学ぶ必要があります。 学習内容：ここでは空気環境、熱環境、音響環境について学びます。	
科	353. 建築科夜間		
年度	2025年度		
学年	1年次		
期	4		
教科名	環境工学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	環境工学2	01) 換気・空気環境：自然換気の原理、必要な換気量の基準、空気汚染の原因がわかる。	
単位	1	02) 熱環境①：熱の伝わり方、熱貫流や熱伝達、熱関連単位、建築物への断熱手法や熱容量の考え方がわかる。	
履修時間	16	03) 熱環境②：建物での結露現象や、内部結露及び外部結露の防止法、湿り空気線図の読み方がわかる。	
回数	8	04) 熱環境③：人体まわりの温熱環境、温熱環境指針の数種、防寒及び防暑の設計手法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 音響①：音の3要素、音の伝わり方及び進み方、音に関する単位、音の合成の考え方、人間の可聴域、防音と遮音がわかる。	
省庁分類	21. ③ 建築環境工学	06) 音響②：音響レベル、残響時間の考え方、音響設計手法、壁の透過損失、住居系の壁及び床の遮音等級がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	加藤 諭	08)	
教科書	環境工学	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築設備・環境計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534103	科目コード	1021501
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を計画・実現するために、個々の建築物の形態制限や安全性を考慮し、構造、防火、避難、室内環境等に関する規定を定めている建築関連法規について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ここでは建築基準法に規定されている、一般構造（採光、換気、天井、階段等）と 集団規定の続きである防火関連及び単体規定について学びます。	
期	4		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規3	01) 建築基準法上の単体既定の定義がわかる。	
単位	1	02) 採光に関する規定がわかる。	
履修時間	16	03) 換気に関する規定がわかる。	
回数	8	04) 天井に関する構造規定がわかる。	
必修・選択	必修	05) 階段に関する構造規定がわかる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	06) 建築基準法上の集団既定の定義がわかる。	
授業形態	講義	07) 防火に関する規定がわかる。	
作成者	稲本淳平	08)	
教科書	建築関連法令集	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534104	科目コード	1021601
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を成り立たせる構造形式とその力学的特性について学び、建築設計、特に構造設計の基本知識を習得する必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ここではトラス構造の基本的な概念と、各種構造形式と外力の状況に応じた算定方法について学びます。	
期	4		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学3	01) トラス構造の基本的な概念がわかる。	
単位	1	02) 接点法による静定トラス構造の解法がわかる。	
履修時間	16	03) クレモナ図解法による静定トラス構造の解法がわかる。	
回数	8	04) 切断法による静定トラス構造の解法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 片持ち梁におけるトラス構造の解法がわかる。	
省庁分類	23. ⑤構造力学	06) 単純梁におけるトラス構造の解法がわかる。	
授業形態	講義	07) ラーメン構造におけるトラス構造の解法がわかる。	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	構造力学	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築構造設計手法を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534105	科目コード	1021701
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を施工するために必要となる工種別（木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造）の施工技術と全体の施工計画の概要を、施工事例や図面を題材として理解する必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：ここでは鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造の施工方法と特性について学びます。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工2	01) 鉄筋コンクリート造の施工方法に関する概要がわかる。	
単位	1	02) 鉄筋コンクリート造の基礎の施工方法がわかる。	
履修時間	16	03) 鉄筋コンクリート造の躯体（柱・壁・床・屋根）の施工方法がわかる。	
回数	8	04) 鉄筋コンクリート造の外壁仕上げの施工方法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 鉄筋コンクリート造の屋根仕上げの施工方法がわかる。	
省庁分類	34. ⑧ 建築生産	06) 鉄筋コンクリート造の内部仕上げの施工方法がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	稲村健一	08)	
教科書	建築施工	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑥		
備考	実務で必要な建築施工管理技術を教える必要があり、建築施工管理の実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534106	科目コード	1021801
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築の各部位に使用される材料の種類、物性、性能、扱いなどを学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：ここでは建築の主要な構造・仕上げ材でもある木材やコンクリート等の種類とその特性を学びます。	
期	4		
教科名	建築材料	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料1	01) 建築材料とその多様性・発達過程と分類、規格がわかる。	
単位	4	02) 木材の種類と特性がわかる。	
履修時間	16	03) 木材の製材方法、規格（JAS）、物理的性質（含水率、収縮率）がわかる。	
回数	8	04) コンクリートの構成材料、種類と特性がわかる。	
必修・選択	必修	05) コンクリートの物理的特性（強度、変形、ヤング係数、体積変化）がわかる。	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) コンクリートの構成材料（セメント、砂利、砂、混和剤）の特性がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	建築材料1	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534107	科目コード	1022101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：建築分野では、建築物の部材の種類（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造・組構造）に応じた構法とその特性について学ぶ必要があります。 学習内容：ここでは鉄筋コンクリート造の構法とその特性について学びます。	
科	353. 建築科夜間		
年度	2025年度		
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造2	01) 鉄筋コンクリート造の構造的概念がわかる。	
単位	1	02) 鉄筋コンクリート造の種類（ラーメン構造、壁式構造）と材料、構法上の特性がわかる。	
履修時間	16	03) 鉄筋コンクリート造の基礎工法がわかる。	
回数	8	04) 鉄筋コンクリート造の躯体（柱、壁、屋根）がわかる。	
必修・選択	必修	05) 鉄筋コンクリート造の外壁・屋根仕上げ工法がわかる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	06) 鉄筋コンクリート造の内部仕上げがわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	稲村健一	08)	
教科書	建築一般構造	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534108	科目コード	2020401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、木造在来軸組構法を用いた木造2階建住宅の設計を通じて、木造2階建住宅建築の計画・設計手法（エスキスから作図まで）、在来軸組構法の構法上の特性、建築設計図面の描き方を学ぶ必要がありがあります。	
年度	2025年度	学習内容：ここでは在来工法木造2階建て住宅の設計課題を実施しながら木造在来工法とその設計手法を学びます。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習4	01) 木造在来軸組構法の特性がわかる。	
単位	1	02) 木造2階建て住宅の実例を通してその特性がわかる。	
履修時間	32	03) 住宅建築設計の設計手法がわかる。	
回数	16	04) 木造建築の構造特性、モジュールがわかる。	
必修・選択	必修	05) 設計手法、エスキスの進め方、表現手法がわかる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 基本図（配置図、平面図、立面図、断面図、概要書）の描き方がわかる。	
授業形態	実習	07) 2DCAD表記方法がわかる。	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534109	科目コード	2020901
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、木造2階建住宅建築の立体表現（CG）の手法を学び、木造住宅建築の空間とその表現方法を理解し、設計課題の実施に役立てる必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：ここでは在来工法木造2階建て住宅の設計課題を実施しながら木造在来工法とその設計手法を学びます。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習4	01) 木造在来軸組構法の特性がわかる。 02) 木造平屋建て住宅の実例を通してその特性がわかる。 03) 住宅建築設計の設計手法がわかる。 04) 木造建築の構造特性、モジュールがわかる。 05) 設計手法、エスキスの進め方、表現手法がわかる。 06) 基本図（配置図、平面図、立面図、断面図、概要書）の描き方がわかる。 07) 3DCAD表記方法がわかる。 08) 09) 10)	
単位	1		
履修時間	32		
回数	16		
必修・選択	必修		
省庁分類	-		
授業形態	実習		
作成者	鈴木 昇		
教科書	建築設計製図		
確認者	鈴木 昇		
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535101	科目コード	1021401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築設備は建物を有効に機能させ、住環境を快適かつ安全、衛生的に保つために必須の要素であり、その一部である排水設備、消火設備と配管方式について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：排水設備、消火設備の種類と特性、配管方式について学びます。	
学年	1年次		
期	5		
教科名	建築設備	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備2	01) 排水種別、建物内の排水方式、トラップの特性と法的規定、間接排水がわかる。	
単位	1	02) 排水槽の構造規定、排水通気の各種方式と特記事項、浄化槽の概要と法的規定がわかる。	
履修時間	16	03) 排水掃除口の役割、敷地内排水方式、排水ますの種別、雨水排水処理、排水管材種別がわかる。	
回数	8	04) 消火原理、消防法内の関連規定、消火器、屋内消火栓、屋外消火栓がわかる。	
必修・選択	必修	05) スプリンクラー消火、特殊消火（水噴霧・泡・ガス系等）、連結送水管、連結散水がわかる。	
省庁分類	22. ④建築設備	06) P SとM Bの特記事項、建物内配管方式（さや管ヘッダ等）、配管の防火区画貫通処理がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	加藤 諭	08)	
教科書	建築設備	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	③		
備考	実務で必要な建築設備計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535102	科目コード	1021901
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を実際に計画、実現（施工）するために必要な建築関連諸法令について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：防火関連規定の中で、防火区画と避難規定、内装制限と排煙設備について学びます。	
期	5		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規4	01) 防火区画の目的がわかる。	
単位	1	02) 防火区画の種類（面積区画、堅穴区画、高層区画、異種用途区画）がわかる。	
履修時間	16	03) 面積区画の意味と適用例がわかる。	
回数	8	04) 堅穴区画の意味と適用例がわかる。	
必修・選択	必修	05) 高層区画の意味と適用例がわかる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	06) 異種用途区画の意味と適用例がわかる。	
授業形態	講義	07) 内装制限の意味と適用例がわかる。	
作成者	稲本淳平	08) 避難規定がわかる。	
教科書	建築関連法令集	09) 避難階段の種類と構造がわかる。	
確認者	鈴木 昇	10) 排煙設備の種類と構造がわかる。	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535103	科目コード	1022001
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を実際に計画し、実現するために、建築の構造形式とその力学的特性について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：静定構造物の断面性能（応力度、断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数）及び座屈荷重について学びます。	
期	5		
教科名	建築構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築構造力学4	01) 断面力の種類と特性がわかる。	
単位	1	02) 断面一次モーメントの意味と算定方法がわかる。	
履修時間	16	03) 断面二次モーメントの意味と算定方法がわかる。	
回数	8	04) 断面係数の意味と算定方法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 座屈現象と座屈荷重の算定方法がわかる。	
省庁分類	23. ⑤構造力学	06) ヤング係数、応力度・ひずみ度曲線の意味がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	構造力学	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築構造設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535104	科目コード	1022201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を施工するために必要となる工種別（木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造）の施工技術と全体の施工計画の概要を、施工事例や図面を題材として理解する必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：ここでは鉄骨造の施工方法と特性について理解します。	
学年	1年次		
期	5		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工3	01) 鉄骨造の構造特性がわかる。	
単位	1	02) 鉄骨造の材料の種類と特性がわかる。	
履修時間	16	03) 鉄骨造の施工手順がわかる。	
回数	8	04) 鉄骨造の基礎工事がわかる。	
必修・選択	必修	05) 工場における加工、検査方法がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 鉄骨造の建て方工事がわかる。	
授業形態	講義	07) 鉄骨造の仕上げ下地（屋根、床、壁）工事がわかる。	
作成者	稲村健一	08) 鉄骨造の仕上げ工事（屋根、床、壁、内装）がわかる。	
教科書	建築施工	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築施工管理技術を教える必要があり、建築施工管理の実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535105	科目コード	1022301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築の各部位に使用される材料の種類、物性、性能、扱い方などを学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：住宅建築の屋根、外壁、床の構成、仕上げ材の種類と特性について学びます。	
期	5		
教科名	建築材料	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料2	01) 屋根に要求される性能についてわかる。	
単位	1	02) 屋根材の種類（非金属、金属）とその特性、設置方法がわかる。	
履修時間	16	03) 外壁に要求される性能についてわかる。	
回数	8	04) 外壁材の種類（木材、金属材、左官材、石材、タイル材）とその特性、設置方法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 床（外部）に要求される性能についてわかる。	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) 床材の種類（左官材、石、タイル）とその特性、設置方法がわかる。	
授業形態	講義	07) 床（内部）に要求される性能についてわかる。	
作成者	鈴木 昇	08) 床材の種類（木材、カーペット、塩ビシート、タイル）とその特性、設置方法がわかる。	
教科書	建築材料	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535106	科目コード	2020501
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：鉄筋コンクリート造壁式構造の構造上の特性を理解した上で小規模共同住宅の設計手法について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：鉄筋コンクリート造壁式構造の構造上の特性を理解した上で小規模共同住宅の設計を通して、計画、法規、設備、施工上の特性について設計作業を通じて学びます。	
期	5		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習5	01) 鉄筋コンクリート造壁式構造の構造特性がわかる。	
単位	1	02) 共同住宅の建築計画上の特性がわかる。	
履修時間	32	03) 共同住宅の建築法規がわかる。	
回数	16	04) 低層住居地域における敷地内での共同住宅の配置計画ができる。	
必修・選択	必修	05) 共同住宅の共用部、専用部の平面計画ができる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 共同住宅の住戸プランができる。	
授業形態	実習	07) 共同住宅の外構計画ができる。	
作成者	鈴木 昇	08) 共同住宅の外観、内観パースが作成できる。	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	③		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535107	科目コード	2021001
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：鉄筋コンクリート造壁式構造の構造上の特性を理解した上で小規模共同住宅の設計手法について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：鉄筋コンクリート造壁式構造の構造上の特性を理解した上で小規模共同住宅の設計を通して、計画、法規、設備、施工上の特性について設計作業を通して学びます。	
期	5		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習5	01) 鉄筋コンクリート造壁式構造の構造特性がわかる。	
単位	1	02) 共同住宅の建築計画上の特性がわかる。	
履修時間	32	03) 共同住宅の建築法規がわかる。	
回数	16	04) 低層住居地域における敷地内での共同住宅の配置計画ができる。	
必修・選択	必修	05) 共同住宅の共用部、専用部の平面計画ができる。	
省庁分類	-	06) 共同住宅の住戸プランができる。	
授業形態	実習	07) 共同住宅の外構計画ができる。	
作成者	鈴木 昇	08) 共同住宅の外観、内観パースが作成できる。	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	③		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531201	科目コード	1030102
系	建築インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	毎授業、建築の各分野の実務に携わる卒業生に、建築の計画・設計・施工・維持管理の各段階で必要とされる経済的知識について講義していただき、日々学んでいる建築専門分野の知識との関連性について理解していただくことを目標としています。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築経済	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築経済	01) 不動産（土地取引、維持管理）に関わる経済性について理解できる	
単位	1	02) 建築の企画・設計に関わる経済性について理解できる	
履修時間	16	03) 建築の施工に関わる経済性について理解できる	
回数	8	04) 建築に維持管理に関わる経済性について理解できる	
必修・選択	必修	05) 建築生産全般に関わる経済性について理解できる	
省庁分類	-	06)	
授業形態	講義	07)	
作成者	鈴木 昇	08)	
教科書	サブテキスト	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	授業テーマに関する報告書の提出により評価する。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531202	科目コード	1030202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	建築を計画、設計するために必要な寸法計画、規模計画、動線計画などについての基礎的知識を学ぶと共に、建築物の種類毎に具体的な機能やプログラム、必要諸室やビルディングタイプなどについて理解を深めていきます。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築計画	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築計画2	01) 学校教育施設（幼稚園、保育所）の歴史と建築計画上の特性、単位空間について理解できる 02) 学校教育施設（小学校・中学校）の歴史と建築計画上の特性、単位空間について理解できる 03) 社会教育施設（図書館）の歴史と建築計画上の特性、単位空間について理解できる 04) 社会教育施設（美術館）の歴史と建築計画上の特性、単位空間について理解できる 05) 社会教育施設（コミュニティセンター・公民館）の歴史と建築計画上の特性、単位空間について理解できる 06) 商業施設の歴史と建築計画上の特性、単位空間について理解できる 07) 08) 09) 10)	
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	20. ②建築計画		
授業形態	講義		
作成者	稲村健一		
教科書	建築計画		
確認者	鈴木 昇		
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531203	科目コード	1030502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	建築関連法規は、個々の建築物の安全性を考慮し、構造、防火、避難、室内環境等に関する規定を定めています。ここでは建築基準法に規定されている構造関連規定のうち、主に構造計算の方法とその分類及び荷重について学びます。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規5	01) 構造耐力と構造設計の原則について理解できる	
単位	1	02) 外部荷重の種類と許容応力度設計について理解できる	
履修時間	16	03) 木材や木造に関連する構造関係規定について理解できる	
回数	8	04) 木造、組石造、補強コンクリート造に関連する構造関係規定について理解できる	
必修・選択	必修	05) 鉄筋 コンクリート造、鉄骨造に関連する構造関係規定について理解できる	
省庁分類	-	06) 建築確認申請及び建築手続関係について理解できる	
授業形態	講義	07)	
作成者	稲本淳平	08)	
教科書	建築法規	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531204	科目コード	1031102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 建築一般構造では、建築物を構成する各種構造形式の特性を理解すると共に、建築設計、建築施工分野においてもその知識を活用できるようにすることを目標とします。ここでは現代建築において特に重要な鉄骨構造及び鉄骨鉄筋コンクリート構造の特性について理解を深めていきます。	
科	353. 建築科夜間		
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 01) 鉄骨構造の概要を理解できる 02) 鋼材の種類と性質について理解できる 03) 各部材の設計について理解できる 04) 接合方法、柱脚について理解できる 05) トラス構造について理解できる 06) 耐火被覆、錆止めについて理解できる 07) 鉄骨鉄筋コンクリート構造について理解できる 08) 09) 10)	
科目名	建築一般構造4		
単位	1		
履修時間	16		
回数	8		
必修・選択	必修		
省庁分類	28. ⑨建築法規		
授業形態	講義		
作成者	稲村健一		
教科書	建築一般構造		
確認者	鈴木 昇		
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531205	科目コード	1031502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 2級建築士の設計製図試験に対する製図の授業です。製図の実技試験は限られた時間内に要求された図面を全て完成をさせなければなりません。出題された問題の条件を早く飲み込み整理をしないといけません。採点は減点法ですので、確実に要求された内容を書き込んでいきましょう。「手描き製図の基礎」および「構造計画と伏図・矩計図」について学びます。	
科	353. 建築科夜間		
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築士総合講座	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築士総合講座I		
単位	1	01) 手描き製図の基礎について理解できる	
履修時間	32	02) 木造在来工法住宅の構造計画について理解できる	
回数	16	03) 床伏図とその書き方について理解できる	
必修・選択	必修	04) 矩計図とその書き方について理解できる	
省庁分類	-	05) 各部構造材の役割、断面寸法、材質について理解できる	
授業形態	実習	06)	
作成者	上岡加奈	07)	
教科書	サブテキスト	08)	
確認者	鈴木 昇	09)	
最終確認者	井坂昭司	10)	
実務教員	○	評価方法	
該当DP	-	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531206	科目コード	2030102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	建築設計には、様々な分野の知見を総合的に関連付け、一つの新しい全体像として提示する建築的想像力が求められるのと同時に、現実の動的な関係性の中で建築を位置づけ、構想を具体化するための設計力も求められる。こうした技術と知識を設計課題に取り組む中で学んでいきます。1期、2期では宿泊施設（都市型ホテル）を設計課題として取り上げ、基本計画から基本設計までの作業を通じて特殊建築物を具現化する方法を学んでいきます。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習6	01) 宿泊施設（都市型ホテル）の設計課題と歴史について理解できる	
単位	1	02) 実例を通して、宿泊施設（都市型ホテル）の建築計画、構造計画、設備計画、駐車場計画の特性が理解できる	
履修時間	32	03) 宿泊施設（都市型ホテル）の設計手法について理解できる	
回数	16	04) 宿泊施設（都市型ホテル）のエスキス作業ができる	
必修・選択	必修	05) 宿泊施設（都市型ホテル）の基本図（配置図、平面図、立面図、断面図）のエスキス図を完成できる	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06)	
授業形態	実習	07)	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計資料集成	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	⑩		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3531207	科目コード	2030602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	建築設計には、様々な分野の知見を総合的に関連付け、一つの新しい全体像として提示する建築的想像力が求められるのと同じ様に、現実の動的な関係性の中で建築を位置づけ、構想を具体化するための設計力も求められる。こうした技術と知識を設計課題に取り組む中で学んでいきます。1期、2期では宿泊施設（都市型ホテル）を設計課題として取り上げ、基本計画から基本設計までの作業を通じて特殊建築物を具現化する立体表現を学んでいきます。	
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習6	01) 配置図兼1階平面図をCAD図面化できる	
単位	1	02) 基準階平面図をCAD図面化できる	
履修時間	32	03) 立面図をCAD図面化できる	
回数	16	04) 断面図をCAD図面化できる	
必修・選択	必修	05) 外観パースを作成できる	
省庁分類		06) 建築概要書をまとめられる	
授業形態	実習	07) 面積表、仕上表をまとめられる	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計資料集成	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	⑩		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532201	科目コード	1030302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建物を有効に機能させ、住環境を快適かつ安全、衛生的に保つために、建築設備について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：建築設備3は、建物における住環境性能の維持及び向上のための、換気設備、排煙設備、空調設備、電気設備、防災設備、太陽光発電・避雷針・搬送設備について理解を深めます。	
期	2		
教科名	建築設備	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備3	01) 換気設備：機械換気設備を中心に、多用されているファンの種別、法令上の規定がわかる。	
単位	2	02) 排煙設備：自然及び機械排煙方式の法令上の規定、特殊排煙方式、消防法令上の排煙規定がわかる。	
履修時間	32	03) 空調設備：空調理論から実際の空調機器の特性、各種空調方式、熱源機器の種別がわかる。	
回数	16	04) 電気設備：電気理論から動力、幹線、電灯コンセント、弱電、配線材料がわかる。	
必修・選択	必修	05) 防災設備：自動火災報知設備、非常警報、誘導灯、非常照明の消防法及び建築基準法令の概要がわかる。	
省庁分類	22. ④建築設備	06) 太陽光発電・避雷設備・搬送設備がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	加藤 諭	08)	
教科書	建築設備	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑧		
備考	実務で必要な建築設備・環境計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532202	科目コード	1030902
系	建築・インテリア系	シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築を構成する材料の特性を理解した上で、必要とされる性能を持つ材料を必要な箇所に利用していくことが実務では求められます。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：この授業では、防水材料などの機能材料及び構造用金属材料の種類と特性について学びます。	
期	2		
教科名	建築材料	科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料3	01) 防水の役割と材料の種類、特性、工法について理解できる	
単位	1	02) アスファルト防水の材料、特性、構法について理解できる	
履修時間	16	03) シート防水の材料、特性、構法について理解できる	
回数	8	04) 塗膜防水の材料、特性、構法について理解できる	
必修・選択	必修	05) FRP防水の材料、特性、構法について理解できる	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) ステンレス防水の材料、特性、構法について理解できる	
授業形態	講義	07) モルタル防水の材料、特性、構法について理解できる	
作成者	鈴木 昇	08) 防火・耐火材料の種類、特性、工法について理解できる	
教科書	建築材料	09) 音響材料(遮音、吸音材料)の種類、特性、工法について理解できる	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う(60点/100点をもって合格とする)。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計手法を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532203	科目コード	1031202
系	建築・インテリア系	シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築構造力学は構造物に外力が作用した場合にどのような力や力の流れがの内部に生じ、建築構造物としてどのように対応したらよいかを解析するための授業です。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：この時間は、1年次に扱った力のつりあい、部材応力などの知識を基礎とし、梁のたわみに関する不静定構造物の構造力学について学びます。	
期	2		
教科名	構造力学	科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学5	01) 応力度、ひずみ度、ヤング係数、ポアソン比と各関連性について理解できる	
単位	1	02) モールの定理について理解できる	
履修時間	16	03) 単純梁のたわみ、たわみ角について理解できる	
回数	8	04) 片持ち梁のたわみ、たわみ角について理解できる	
必修・選択	必修	05) 剛度、剛比について理解できる	
省庁分類	23. ⑤構造力学	06) 不静定構造物の変形について理解できる	
授業形態	講義	07) 固定モーメント法の解析方法について理解できる	
作成者	鈴木 昇	08) たわみ角法の解析方法について理解できる	
教科書	構造力学	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築構造設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532204	科目コード	1031602
系	建築・インテリア系	シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：2級建築士の設計製図試験に対する製図の授業です。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：ここでは計画から作図までを手早く行うための設計手法を学びます。	
期	2		
教科名	建築士総合講座	科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築士総合講座2	01) 配置・平面計画の進め方、作図方法が理解できる	
単位	1	02) 平面図上の構造計画、作図方法が理解できる	
履修時間	32	03) 平面図上の設備計画、作図方法が理解できる	
回数	16	04) 平面図を利用した立面図の計画、作図方法が理解できる	
必修・選択	必修	05) 平面図、立面図を利用した断面図の計画、作図方法が理解できる	
省庁分類	-	06)	
授業形態	実習	07)	
作成者	上岡加奈	08)	
教科書	サブテキスト	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う(各50点満点、合計60点以上で合格とする)。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532205	科目コード	2030202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築設計には、様々な分野の知見を総合的に関連付け、一つの新しい全体像として提示する建築的想像力が求められるのと同時に、現実の動的な関係性の中で建築を位置づけ、構想を具体化するための設計力も求められます。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：1期、2期では宿泊施設（都市型ホテル）を設計課題として取り上げ、基本計画から基本設計までの作業を通じて特殊建築物を具現化する方法を学んでいきます。	
期	2		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習7	01) 宿泊施設（都市型ホテル）の設計課題と歴史について理解できる	
単位	1	02) 実例を通して、宿泊施設（都市型ホテル）の建築計画、構造計画、設備計画、駐車場計画の特性が理解できる	
履修時間	32	03) 宿泊施設（都市型ホテル）の設計手法について理解できる	
回数	16	04) 宿泊施設（都市型ホテル）のエスキス図面をCAD図面化できる	
必修・選択	必修	05) 宿泊施設（都市型ホテル）の基本図（配置図、平面図、立面図、断面図）のCADを完成できる	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06)	
授業形態	実習	07)	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計資料集成	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3532206	科目コード	2030702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築設計には、様々な分野の知見を総合的に関連付け、一つの新しい全体像として提示する建築的想像力が求められるのと同時に、現実の動的な関係性の中で建築を位置づけ、構想を具体化するための設計力が求められます。	
年度	2025年度	学習内容：1期、2期では宿泊施設（都市型ホテル）を設計課題として取り上げ、基本計画から基本設計までの作業を通じて特殊建築物を具現化する立体表現を学んでいきます。	
学年	2年次		
期	2		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習7	01) 配置図兼1階平面図をCAD図面化できる	
単位	1	02) 基準階平面図をCAD図面化できる	
履修時間	32	03) 立面図をCAD図面化できる	
回数	16	04) 断面図をCAD図面化できる	
必修・選択	必修	05) 外観パースを作成できる	
省庁分類	-	06) 建築概要書をまとめられる	
授業形態	実習	07) 面積表、仕上表をまとめられる	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計資料集成	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533201	科目コード	1030402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：建築分野では、現代建築の成り立ちを理解する上で、近代以降の日本及び西欧建築史について、産業革命以降、急速に発展する都市の中で近代建築（モダニズム）が生まれ世界に流布する過程と、近代建築の巨匠たちの作品と共に学ぶ必要がある。	
科	353. 建築科夜間		
年度	2025年度	学習内容：19世紀後半から20世紀後半までの日本及び西洋建築史の中で特に後世に大きな影響を与えた建築物を取り上げ、その特性と意義について学びます。	
学年	2年次		
期	3	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築史		
科目名	建築史3	01) 明治時代の日本の建築史がわかる。 02) 大正・昭和初期の日本の建築史がわかる。	
単位	1		
履修時間	16	03) 第二次大戦後の日本の建築史がわかる。 04) 19世紀後半の西欧建築史がわかる。	
回数	8		
必修・選択	必修	05) 20世紀前半の西欧建築史がわかる。 06) 20世紀後半の西欧建築史がわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画		
授業形態	講義	07) 08)	
作成者	鈴木 昇		
教科書	建築史	09) 10)	
確認者	鈴木 昇		
最終確認者	井坂昭司	評価方法 期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
実務教員	○		
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533202	科目コード	1030702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築計画学の目的を理解した上で、主に社会福祉・教育施設における人間行動とその空間構成の関係性について学び、建築設計実習で生かせる知識を学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：この授業では、防水材料などの機能材料及び構造用金属材料の種類と特性につて学びます。	
学年	2年次		
期	3	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築計画	01) 図書館建築の構成と計画上の特性がわかる。	
科目名	建築計画3	02) 幼稚園・保育園建築の構成と計画上の特性がわかる。	
単位	1	03) 学校建築の構成と計画上の特性がわかる。	
履修時間	16	04) 美術館建築の構成と計画上の特性がわかる。	
回数	8	05) 博物館建築の構成と計画上の特性がわかる。	
必修・選択	必修	06) 劇場建築の構成と計画上の特性がわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画	07) 事務所ビルの構成と計画上の特性がわかる。	
授業形態	講義	08) コミュニティ施設の構成と計画上の特性がわかる。	
作成者	稲村健一	09) 高齢者施設の構成と計画上の特性がわかる。	
教科書	建築計画	10) 福祉施設の構成と計画上の特性がわかる。	
確認者	鈴木 昇	評価方法	
最終確認者	井坂昭司	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
実務教員	○		
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533203	科目コード	1030802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を建築するために、これまで学んできた建築基準法以外の建築関連法規についても、その基本的な概念と適用例について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：建築基準法以外の建築関連法規について取り上げ、その基本的な概念と適用例を学びます。	
学年	2年次		
期	3		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規6	01) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）の基本的な概念と適用例がわかる。	
単位	1	02) 住宅の品質確保の促進等に関する法律（品確法）の基本的な概念と適用例がわかる。	
履修時間	16	03) 消防法の基本的な概念と適用例がわかる。	
回数	8	04) 建築土法の基本的な概念と適用例がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建設業法の基本的な概念と適用例がわかる。	
省庁分類	－	06) 耐震改修法の基本的な概念と適用例がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	稲本淳平	08)	
教科書	建築法規	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	－		
備考	実務で必要な建築計画・設計手法を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533204	科目コード	1031302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：2級施工管理技術検定試験の受験準備のために、これまで学んできた建築施工、建築計画、建築構造、環境工学、構造力学など各分野の知識を復習し、多くの過去問題を解く必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：これまで学んできた建築の各専門分野の内容の総復習を行います。	
学年	2年次		
期	3		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工4	01) 建築施工分野の総復習を行い、2級施工管理技術検定の試験問題が解ける。	
単位	6	02) 建築計画分野の総復習を行い、2級施工管理技術検定の試験問題が解ける。	
履修時間	96	03) 建築一般構造分野の総復習を行い、2級施工管理技術検定の試験問題が解ける。	
回数	48	04) 構造力学分野の総復習を行い、2級施工管理技術検定の試験問題が解ける。	
必修・選択	必修	05) 環境工学分野の総復習を行い、2級施工管理技術検定の試験問題が解ける。	
省庁分類	-	06)	
授業形態	講義	07)	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築施工	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築施工管理技術を教える必要があり、建築施工管理の実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533205	科目コード	2030302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築計画上の諸条件と各分野の専門知識を統合させ、一つの建築物として成立させるための設計手法と製図技術を学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：3期、4期では複合社会福祉施設を設計課題として取り上げ、基本計画から基本設計までの作業を通じて特殊建築物を具現化する方法を学びます。	
期	3		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習8	01) 複合社会福祉施設）の設計課題と歴史がわかる。	
単位	1	02) 実例を通して、複合社会福祉施設の建築計画、構造計画、設備計画、駐車場計画の特性がわかる。	
履修時間	32	03) 複合社会福祉施設の設計手法がわかる。	
回数	16	04) 複合社会福祉施設のエスキス図面をCAD図面化できる。	
必修・選択	必修	05) 複合社会福祉施設の基本図（配置図、平面図、立面図、断面図）をCAD化できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06)	
授業形態	実習	07)	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計資料集成	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3533206	科目コード	2030802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築計画上の諸条件と各分野の専門知識を統合させ、一つの建築物として成立させるための設計手法と製図技術を学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：3期、4期では複合社会福祉施設を設計課題として取り上げ、基本計画から基本設計までの作業を通じて特殊建築物を具現化する方法を学びます。	
学年	2年次		
期	3		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習8	01) 配置図兼1階平面図をCAD図面化できる。	
単位	1	02) 基準階平面図をCAD図面化できる。	
履修時間	32	03) 立面図をCAD図面化できる。	
回数	16	04) 断面図をCAD図面化できる。	
必修・選択	必修	05) 外観パースを作成できる。	
省庁分類	-	06) 建築概要書を作成できる。	
授業形態	実習	07) 面積表、仕上表を作成できる。	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計資料集成	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534201	科目コード	1030602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物を構成する構造部材の種類（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造・組積造）に応じた構法とその特性を扱う一般構造について学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：ここでは鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の構法とその特性について学びます。	
学年	2年次		
期	4		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造3	01) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の構造的概念がわかる。	
単位	2	02) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の種類（ラーメン構造、壁式構造）と材料、構法上の特性がわかる。	
履修時間	32	03) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の基礎工法がわかる。	
回数	16	04) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の躯体（柱、壁、屋根）がわかる。	
必修・選択	必修	05) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の外壁・屋根仕上げ工法がわかる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	06) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の内部仕上げがわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	稲村健一	08)	
教科書	建築一般構造	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務に必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534202	科目コード	1031002
系	建築インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築物の計画から施工、維持管理、解体までの経緯を建築生産の観点から理解する必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：建築の企画・設計から施工管理及びコストや工程管理、竣工後の維持管理までの経緯を学びます。	
学年	2年次		
期	4		
教科名	生産管理	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	生産管理	01) 建築の企画・設計過程がわかる。	
単位	1	02) 建築施工の計画から施工手法がわかる。	
履修時間	16	03) 建築施工業者の選定、入札がわかる。	
回数	8	04) 建築施工管理の手法（工程管理、コスト管理、工事管理）がわかる。	
必修・選択	必修	05) 竣工・引き渡し後の維持管理の手法とコスト管理がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 建築物の解体手法とコスト管理がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	楠山登喜雄	08)	
教科書	建築生産	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務に必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534203	科目コード	2030402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、建築設計に必要な様々な分野の知見を総合的に関連付け、一つの新しい全体像として提示する建築的想像力が求められるのと同時に、現実の動的な関係性の中で建築を位置づけ、構想を具体化するための設計方法について学ぶ必要がある。	
年度	2025年度	学習内容：3期、4期では複合社会福祉施設の基本計画から基本設計までの作業を通じて特殊建築物の設計手法について学びます。	
学年	2年次		
期	4		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習9	01) 複合社会福祉施設）の設計課題と歴史がわかる。	
単位	1	02) 実例を通して、複合社会福祉施設の建築計画、構造計画、設備計画、駐車場計画の特性がわかる。	
履修時間	32	03) 複合社会福祉施設の設計手法がわかる。	
回数	16	04) 複合社会福祉施設のエスキス図面をCAD図面化できる。	
必修・選択	必修	05) 複合社会福祉施設の基本図（配置図、平面図、立面図、断面図）のCADを完成できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06)	
授業形態	実習	07)	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計資料集成	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務に必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3534204	科目コード	2030902
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築設計には、様々な分野の知見を総合的に関連付け、一つの新しい全体像として提示する建築的想像力が求められるのと同時に、現実の動的な関係性の中で建築を位置づけ、構想を具体化するための設計力を身に着けることが求められる。	
年度	2025年度	学習内容：3期、4期では複合社会福祉施設を設計課題として取り上げ、基本計画から基本設計までの作業を通じて特殊建築物の設計手法について学びます。	
学年	2年次		
期	4		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習9	01) 配置図兼1階平面図をCAD図面化できる。	
単位	1	02) 基準階平面図をCAD図面化できる。	
履修時間	32	03) 立面図をCAD図面化できる。	
回数	16	04) 断面図をCAD図面化できる。	
必修・選択	必修	05) 外観パースを作成できる。	
省庁分類	-	06) 建築概要書をまとめられる。	
授業形態	実習	07) 面積表、仕上表をまとめられる。	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計資料集成	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務に必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535201	科目コード	1031402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築の分野では、設計図や仕様書などの設計図書に基づいて建築材料の数量を拾い、工事費の算出手法を学ぶ必要があります。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：この授業では、土工事に関する数量の算出、ＲＣ躯体のコンクリート、型枠、鉄筋の数量の算出の方法、仕上を中心とした内外装材の実務的数量積算手法を学びます。	
期	5		
教科名	建築積算	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築積算	01) 建築積算の役割がわかる。	
単位	2	02) 建築積算の概略がわかる。	
履修時間	32	03) 土工事に関する数量を算出できる。	
回数	16	04) ＲＣ躯体のコンクリートの数量を算出できる。	
必修・選択	必修	05) 型枠、鉄筋の数量を算出できる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 仕上を中心とした内外装材の実務的数量積算手法がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	楠山登喜雄	08)	
教科書	建築積算	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築積算技術を教える必要があり、建築積算実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535202	科目コード	2030502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：これまで学んだ鉄筋コンクリート造に関する知識と製図技術を基に、公共建築物の基本図を手描き図面で仕上げられる技術を習得する必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：1級建築士製図試験の課題を題材に、特殊建築物の手書き製図の技術を習得します。	
学年	2年次		
期	5		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習10	01) 鉄筋コンクリート造の構造特性と製図方法がわかる。	
単位	1	02) 特殊建築物の基本計画がわかる。	
履修時間	32	03) 特殊建築物の構造計画、設備計画がわかる。	
回数	16	04) 特殊建築物の法規制がわかる。	
必修・選択	必修	05) 特殊建築物の基本図（配置図、平面図、立面図、断面図）が描ける。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 特殊建築物の仕上げ表、面積表が描ける。	
授業形態	実習	07)	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535203	科目コード	2031002
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：これまで学んだ鉄筋コンクリート造に関する知識と製図技術を基に、公共建築物の基本図を手描き図面で仕上げられる技術を習得する必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：1級建築士製図試験の課題を題材に、特殊建築物の手書き製図の技術を習得します。	
学年	2年次		
期	5		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習10	01) 鉄筋コンクリート造の構造特性と製図方法がわかる。	
単位	1	02) 特殊建築物の基本計画がわかる。	
履修時間	32	03) 特殊建築物の構造計画、設備計画がわかる。	
回数	16	04) 特殊建築物の法規制がわかる。	
必修・選択	必修	05) 特殊建築物の基本図（配置図、平面図、立面図、断面図）が描ける。	
省庁分類	-	06) 特殊建築物の仕上げ表、面積表が描ける。	
授業形態	実習	07)	
作成者	出牛大二郎	08)	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No	3535204	科目コード	2031102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、国家資格である建築士資格の取得は実務上必須であり、その対策講座は試験合格のために必要です。特に実務で経験することの少なくなった手書き製図対策が必要です。	
年度	2025年度	学習内容：ここでは木造在来軸組構法の住宅建築の計画から作図までを手早く行うための設計手法を学びます。	
学年	2年次		
期	5		
教科名	建築士総合講座	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築士総合講座3	01) 木造在来工法の断面図の描き方がわかる。	
単位	1	02) 木造在来工法の断面構成部材の種類とサイズがわかる。	
履修時間	32	03) 木造在来工法の断面構成部材を作図できる。	
回数	16	04) 木造在来工法の断面詳細図（矩形図）の描き方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 木造在来工法の断面詳細図（矩形図）に記入する部材名、サイズ、寸法がわかる。	
省庁分類	-	06)	
授業形態	実習	07)	
作成者	上岡加奈	08)	
教科書	建築設計製図	09)	
確認者	鈴木 昇	10)	
最終確認者	井坂昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び提出作品で判定を行う（各50点満点、合計60点以上で合格とする）。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な建築計画・設計技術を教える必要があり、建築設計実務経験のある実務家教員に担当させている		

No		3535205	科目コード	2031302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由		
科	353. 建築科夜間	必要性：建築分野では、測量学の基礎を学び、建築測量上必須である水準測量と角測量の原理及び実施方法をグループ実習を通して学ぶ必要があります。		
年度	2025年度			
学年	2年次	学習内容：水準測量と角測量の原理及び実施方法についてグループ実習を通して学び、測量作業を実施できるようにします。		
期	5			
教科名	測量実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目		
科目名	測量実習2	01) 測量学の基礎がわかる。 02) 建築測量の基礎がわかる。 03) 水準測量の原理がわかる。 04) 水準測量器（レベル）が使用できる。 05) 角測量の原理がわかる。 06) 角測量器（デジタルセオドライト）が使用できる。 07) 測量実習データの整理ができる。 08) 測量誤差の是正方法がわかる。 09) 10)		
単位	1			
履修時間	32			
回数	16			
必修・選択	必修			
省庁分類	32. ⑩その他			
授業形態	実習			
作成者	鈴木 昇			
教科書	測量実習			
確認者	鈴木 昇			
最終確認者	井坂昭司	評価方法		
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）		
該当DP	－			
備考	実務で必要な測量技術を教える必要があり、建築施工管理の経験のある実務家教員に担当させている			